

○市町村の木の由来

No.	市町村名 (市町村の木)	写真 (市町村HP等より)	制定 時期	由 来
1	新潟市 (ヤナギ)		平成 19年	<p>○市制100周年を記念して、新潟市の緑化のシンボルとなる市の木「ヤナギ」と市の花「チューリップ」を平成元年4月1日に制定。 ○新潟市の広域合併及び政令指定都市移行を記念して、市の木「ヤナギ」と市の花「チューリップ」を平成19年4月1日に改めて制定。 ○平成19年の制定時は、平成18年7月下旬から約1カ月間、市民に公募し、市の「木」と「花」それぞれ2,200通を超える応募あり。 ○応募の対象は、全ての「木」と「花」を対象。 ※参考として、合併前の旧市町村で制定してあったものを公募方法に掲載 ○公募結果(総数:2,239通) <市の木> 第1位 ヤナギ 1,031通、 第2位 ケヤキ 293通、 第3位 マツ 168通 ○上記の公募結果をもとに、新潟市の附属機関である新潟市緑化審議会へ諮問し、新潟市の「木」を「ヤナギ」に決定</p> <p><ヤナギの選定理由> ・応募数が圧倒的に多く、各支所(旧市町村)内の応募内容も1位が大半であった。 ・新潟地域の「柳都」としてのイメージが定着しており、市内で街路樹にも使われ、その並木は情緒がある。 ○市民応募の数が多かった「ケヤキ」・「マツ(アカマツ・クロマツ)」・「サクラ」については、市の推奨する木としている。</p>
2	三条市 (五葉松)		平成 17年	<p>五葉松は、日本原産の松科の樹木で、針葉が5本の束になっていることからこのように呼ばれています。盆栽としても人気の高い樹種ですが、庭に植えれば主木となり、庭全体に深みと気品を及ぼすことができる木として評価されています。 針葉は他の松科植物と比べると短く、色は青みがかったのですが、土壌によって葉の色が異なるため、白みがかった保内の五葉松は特に「保内の霜降り五葉」と呼ばれ、高い評価を受けました。 保内五葉は全国的に知名度が高いこと、下田地区の山岳地に自生していること及び各家庭等にも普及し親しみやすいことから、五葉松を三条市の木としました。</p>
3	加茂市 (スギ)		平成 3年	<p>【背景・目的】 ・緑豊かな住みよいまちづくりと地域活性化のシンボルとして制定 ・市民からの推薦を基に「加茂市の木・花選定委員会」が選定</p> <p>【市民からの推薦状況】 ・推薦総数:282通 ・主な候補と推薦数(上位3位) 杉:84通、 桐:83通、 雪椿:78通 その他候補も含め、計16種</p> <p>【「杉」を市の木に選んだ理由】 ・多くの木の中で一番緑が豊かであること ・加茂山の爺杉(じじすぎ)をはじめ、樹齢数百年の名木が多く存在 ・加茂市の約7割が山林地域であり、治山・治水の面で杉は重要 ・杉はまっすぐにすくすく成長する</p> <p>【制定までの経緯】 ・平成3年3月定例会市議会で正式に「市の木・花」が制定(3月22日) ・平成3年4月28日の雪まつり大園遊会で指定宣言</p>

No.	市町村名 (市町村の木)	写真 (市町村HP等より)	制定 時期	由 来
4	十日町市 (ブナ)		平成 17年	<p>平成17年の新市誕生時に選定委員会にて、公募の中から「植性や発信力、PR効果や市民から親しまれている」などの理由から市の木がブナに決定したもの。</p> <p>【具体的な理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寒さに強く、当市の気候に合っている。 ・新緑をはじめ四季を通して美しく、市内には美人林、二六公園、当間山など多くのブナの名所があり、全国に知られている。 ・水源かん養としての役割や、ブナ林がはぐくむ動植物の自然のサイクルは環境保全の代名詞ともいわれ、地球規模の普遍性がある。 ・森林浴など、いやしの場として市民が身近に親しめる。
5	見附市 (ウメ)		—	<p>1974年4月から、市の木に梅を掲げて、広報活動が行われてきています。</p> <p>昭和40年代に見附市の緑化推進協議会が梅の苗木を各戸に配付する活動を推進しており、当時から市民に広く愛されている木として、見附市の木は梅という意識が浸透していました。</p> <p>市条例によって正式に規定されているものではなく、梅が選択された詳しい理由は今となってははっきりしませんが、一説には、厳しい冬に耐え美しく咲く姿から、その花言葉である「忍耐」、「高潔」が見附市民の心性をよく表しているからといわれています。</p> <p>また、「いざ鎌倉」、謡曲『鉢の木』で知られる佐野源左衛門は見附市の人物であり、見附市内の「梅田」という地所が鎌倉幕府から賜った「梅田庄」であったとする伝承もあります。</p> <p>見附市内の梅の名木としては、水道山・観音山公園の紅白梅、見附市庁舎前の記念樹（姉妹都市であるマイリンケ市（ブラジル）の親善交流使節団が来市した際に植樹されたものが知られており、開花の季節には訪れる市民の目を楽しませています。</p> <p>市の歴史や文化（大風合戦、獅子舞）のシンボルとともに、マンホール蓋のデザインにも採用されています。</p>
6	村上市 (ブナ)		平成 23年	<p>■村上市の木・花・鳥（平成23年1月20日制定）</p> <p>市の木「ブナ」市内各地の高海拔地に広く分布しています。</p> <p>水を貯める水源かん養機能が高く、表土を安定させ自然災害を防ぎ、自然環境を保全する大きな役割を果たしています。（出典先：第3次村上市総合計画）</p>
7	糸魚川市 (ブナ)		平成 20年	<p>ブナは、里山から亜高山帯に至る広い範囲に自生しています。保水力が高いことが大きな特徴で、ブナの周りには、山菜やキノコなどの食糧が豊富であり、さまざまな動植物の共生の場となっています。豊かな自然を象徴する木であり、私たちに自然の恵みを実感させてくれます。</p> <p>※平成20年3月19日、市民憲章と共に市のシンボルを制定しました。制定にあたっては、市民からのアンケートをもとに、何度も話し合いを重ね決定したものです。 (市ホームページに掲載したものを引用)</p>

No.	市町村名 (市町村の木)	写真 (市町村HP等より)	制定 時期	由 来
8	妙高市 (ブナ)		平成 17年	<p>【経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妙高市の誕生を受けて、新生妙高市のイメージを高め、早期に市民の一体感の醸成を図るため、市民に親しまれ、豊かな自然環境を象徴する「花・木・鳥」の選定を行った。 ・市民から応募のあった候補の中から、選定委員会で決定した。 ・平成17年9月19日に開催された「妙高市誕生記念式典」で発表された。 <p>【選定理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の木「ブナ」は、笹ヶ峰高原から大毛無山、平丸地区など全市的に分布しており、水源かん養林としての重要な役割とともに、その実は野性動物の貴重な餌となるなど生命の営みに重要であり、妙高市の掲げる生命地域にふさわしいものである。
9	佐渡市 (アテビ)		平成 17年	<p>アテビの和名は、ヒノキアスナロで、新潟県ではそのほとんどが佐渡に分布します。江戸時代から佐渡の特産として植林が盛んに奨励されました。</p> <p>アテビは、風雪に耐え、やせ地、日陰地、乾燥地でもよく育ち、育苗は、挿し木と取り木でよいです。材質は緻密で滑らか木目美しく、香気も高く、そして耐久性に優れ、建築材として注目されています。</p> <p>現在、アテビの会が発足しており、普及に努めています。</p>
10	胎内市 (松・ヤマボウシ)		平成 18年	<p>ヤマボウシは、初夏を代表する花木で、夏の白い花と秋に実る赤い集合果が特色であり、黄色の染物などに利用され、市内の山地に生息しています。</p> <p>市制施行の際に、古より地域の方々に親しまれてきた花木であり、松とともに市を象徴する木にも制定されています。</p>
11	弥彦村 (椎の木)		昭和 48年	<p>「豊かな自然と、緑をとりもどそう」の運動の一環として弥彦村推奨の木を公募し、昭和48年4月27日「椎の木」に決定した。</p> <p>椎の木は、神社の神木であること、弥彦村との歴史的な関係が深いこと、常緑喬木であること、古歌にも多く歌われていること、生育が容易であることが決定理由にあげられた。</p> <p>現在、弥彦神社境内の旧本殿跡の一角に繁茂しており、弥彦大神の「神木」といわれている。</p>
12	阿賀町 (スギ)		平成 18年	<p>多くの自然を有する阿賀町において、ひときわ天高くそびえる「スギ」また、町内にはスギの巨木日本で有名な「将軍杉」もあり、町のシンボルとなる木です。</p>

No.	市町村名 (市町村の木)	写真 (市町村HP等より)	制定 時期	由 来
13	湯沢町 (ベニヤマザクラ)		昭和 48年	全国的に分布している桜といえばソメイヨシノが一般的ですが、ベニヤマザクラは主に日本海側の冷寒な山地に分布しています。そのため、湯沢町ではベニヤマザクラを1973年の5月に町の木と指定しています。また、湯沢町の桜の名所である湯沢中央公園では、約400本の桜の木を鑑賞することができ、その中でベニヤマザクラは約280本にもなります。
14	津南町 (ブナ)		平成 17年	<p>昭和55年に町制施行25周年を記念し選定した町の木（津南桐）、花（野菊）、鳥（うぐいす）を、町制施行50周年を機に見直したほうが良いという意見が多数あったことから、平成17年、町民を対象に町の「木」「花」「鳥」の公募を実施。応募総数166通の中からブナが選ばれた。</p> <p>(応募内訳) ブナ60票・桐32票・スギ15票・花梨13票 ほか、めぐすりの木、桜、ほおの木、こぶし、紅山桜など</p> <p>全国的に知られる樽田の森には、残雪と新緑が織りなす美しい季節の移ろいと、木漏れ日が差し込む静かなブナ林が広がっており、この豊かな森は訪れる人の心を癒し、津南町の自然の魅力を象徴する存在となっている。また、この樽田の森は平成20年4月に森林セラピー基地に認定され、雪解け後から10月の終わりくらいまで、多くの人に楽しまれている。森林セラピーとは、癒し効果が科学的に検証された「森林浴効果」で、実証実験の結果、ここでの森林浴はストレス状態を緩和し、生体をリラックスさせる森林セラピー効果があることが示されている。</p>